

平成30年度 学校自己評価表 （ 計画段階 ・ **実施段階** ）

68

福岡県立伝習館高等学校長 印

学校運営計画（4月）				評価（3月）		
学校運営方針		（教育目標）創立195年の伝統を受け継ぎ、次代を担う人間として、義を重んじ、自ら学び考える知性と規範意識・奉仕の精神を持つ心豊かな人間を育てるとともに、逞しい社会有為の人間を育成する。		B		
昨年度の成果と課題		重点目標	具体的目標			
<p>生徒募集に力を注ぎ、大牟田での進路相談会、学習交流会等を実施したことで、推薦入試倍率2.05倍、一般入試倍率1.22倍という素晴らしい成果を修めた。今後、推薦入試倍率2倍以上、一般入試倍率1.2倍以上を維持しなければならない。今年度は生徒募集部を設置し、中学校訪問等を数多く実施することで更なる信頼関係を強固のものにしたい。多くの生徒が国公立大学へ合格するなど、第一希望進路の実現も概ね達成することが出来た。難関大学へは京都大学1名、医学科1名合格することが出来た。今後も難関大学への合格者を増やすことで、生徒・保護者のニーズに応じて行く学校づくりを行う。今年度は数多くの職員が校外研修を受講できるようにし、教科指導力を高め、生徒の更なる学力の向上・定着に努める。</p>		<p>以下に示すAP(アドミッション・ポリシー)、CP(カリキュラム・ポリシー)、DP(ディプロマ・ポリシー)を軸とした広義の教育課程の確立を目指す。</p> <p>・AP：本校が求める生徒像</p> <p>①「義」を重んじ、本校への誇りと学ぶ意欲を持った伝習館生 ②自ら志を立て、自ら鍛え、更なる高みを目指す伝習館生 ③豊かな感性と深い道徳心を持ち、地域に貢献できる伝習館生</p> <p>・CP：本校が展開する教育活動</p> <p>①全ての教育活動において「義」を実践し、人としての在り方・生き方の教育 ②「主体的・対話的で深い学び」を通じ、次世代を生き抜く資質・能力の向上 ③地域に学び、地域を愛し、地域と共に生きる人財の育成</p> <p>・DP：本校を卒業するまでに身に付けさせる力</p> <p>①「義」心を理解し、実践できる力 ②自らの志に向かい、挑戦し続ける力 ③広い視野と深い洞察力で、物事を俯瞰出来る力</p>	<p>・生徒募集部を設置し、積極的かつ戦力的な生徒募集と学校ホームページの充実</p> <p>・「立ち止まり挨拶」や「掃除の徹底」「時間の厳守」等、基本的な規範意識の涵養</p> <p>・「心の教育」を実践し、いじめを行わない・いじめを見逃さない人物の育成</p> <p>・人権教育の充実</p> <p>・「主体的・対話的で深い学び」の観点に立つ授業実践と評価の在り方の工夫・改善</p> <p>・文武両道の確立（生徒の第一希望進路の実現と部活動入部率90%以上）</p> <p>・個に応じた学習指導体制の構築（習熟度別及び少人数授業や2、3年生次の6クラス編成体制）</p> <p>・難関大学に挑む生徒育成のために課外授業及び土曜セミナーの実施形態の改善</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
教務部	教務課	次期学習指導要領に関する情報提供を行う。	A	A	<p>①次期学習指導要領の実施に向けた、諸課題（教育課程・総合的な探究の時間など）について検討をおこなっている。</p> <p>②本年度に引き続き、出席率の向上と長欠生徒の減少を目指す。</p> <p>③組織改編に伴い、教務部全体の業務内容が増加するため、業務に支障が生じないための対策を行う。</p>	
		学年集会等で欠席することの不利益を訴え、出席率の向上を図る。	A			
		観点別評価の導入に向けて検証を進め、課題を明確にする。	B			
		欠席が多い生徒の実態把握に努め、長欠生徒の減少を目指す。	長欠生徒の個人カルテを作成し、長欠生徒の実態把握に努める。	B		A
			学年・保健課・教育相談委員会等と連携し、長欠生徒の減少を目指す。	A		
			学年集会等で欠席することの不利益を訴え、出席率の向上を図る。	A		
	主体的・対話的で深い学びを実現するための様々の方策を進める。	主体的・対話的で深い学びのため、授業の改善を推進する。	B	C		
		I C T機器の導入により、教育環境の改善を図る。	C			
		教育環境の変化に柔軟に対応できるように、教務システムの改善を行う。	C			
	庶務広報課	伝習館高校が地域、保護者に十分理解してもらえるよう、広報活動を活発化する。	ホームページに、学校行事、学年行事や部活動報告を数多く掲載する。	B		B
			学校案内の作成を早め、10学区の中学生に1学期中に配布する。	B		
			ホームページの記事データを校務用パソコンで、効率的に集める。	C		
父母教師会活動を通じて、保護者と学校の連絡関係を密なものにする。		P T A行事の手順は学校側と事前の打ち合わせをし、円滑に行えるようにしておく。	A	A		
		日程調整を事前に行い、職員が協力しやすい形を作る。	A			
		職員にP T A行事についての協力体制を構築する。	A			
学校行事が生徒の教育の場としての役割を果たすよう、円滑な運営を行う。		実施要項を作成し、運営を可視化することで、職員減に対応できるようにする。	A	B		
		係毎の反省を行い、それを踏まえ、次年度への改善を行う。	B			
		責任者会議、係会議を行い、全体の意思疎通を徹底する。	B			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
教務部	研修課	職員の研修意欲の高揚を図り、資質の向上に繋がる職員研修を企画する。	「主体的、対話的で深い学び」、生徒指導関係、情報関係の研修会を企画する。	B	B	①職員研修の充実 ②授業と生徒評価の改善 ③教育実習の充実
			新たな学びとその評価をキーワードに生徒の学ぶ意欲を喚起し、学力向上に繋がる授業研究会を企画する。	B		
			キャリアアップ講座、新たな学びやICT活用実践報告会などへの積極的な参加を促す。	B		
		人権同和教育を推進するとともに、特別支援教育の観点から職員研修を実施する。	生徒の実態把握に努め、それに応じた指導案の検討・工夫を行う。	A	A	
			父母教師会との連携による講演会を実施し、保護者を含めて人権意識の向上を図る。	A		
			学校不適応や心理的葛藤を抱えた生徒への支援態勢を整える研修を実施する。	B		
		初任者の教職員としての自覚や意識の高揚を図り、指導力の育成に繋がる初任者研修を企画する。	指導教員と協力して初任者の指導力育成につながる研修を企画する。	A	A	
			教育実習生の指導力の育成に繋がる教育実習を企画する。	B		
			初任研および教育実習に関する連絡や報告文書の送付を遺漏なく行う。	A		
		進路指導部	進路指導課	総合的な学習の時間で自己適性を知り、自己進路を具体化させる。	総合的な学習の時間で自己適性を知り、自己進路を具体化させる。	
オープンキャンパスの参加や講演会を通して、国公立大学への挑戦意欲を育てる。	A					
個人面談を実施し、細やかな進路相談体制をつくる。	B					
大学進学に応じた課外・セミナー・合宿勉強会を実施し、支援する。	大学進学に応じた課外・セミナー・合宿勉強会を実施し、支援する。			A	A	
	校外模試、外部検定試験を実施し、到達度を確認する機会と位置づけ、進路指導に反映する。			A		
	A0入試等の面接・小論文指導の充実を図る。			B		
生徒、保護者に有益な「進路の手引き」を配付する。	生徒、保護者に有益な「進路の手引き」を配付する。		B	B		
	進路情報や入試問題集の精選、充実を図り、生徒に提供する。		B			
	地域、保護者、生徒のニーズに応じた進路情報をHPで積極的に発信する。		B			
企画調整課	総学において、各学年と連携し、進路研究と課題研究を中心とする取り組みを充実したものにする。		進路研究では、自分の資質や適性を考察し、高い志に向けて努力する意欲ある生徒を育成する。	B	B	
			課題研究では、世の中の論点を知り、自分なりの意見を持ち、問題解決のための活動を試みる。	A		
			各自の活動や意見を効果的に表現できる生徒を育成する。	B		
	体験入学や各種説明会で、本校の教育活動への理解を深めることができるよう資料などを作成する。		本校の教育活動の内容やその魅力について、中学生や保護者に対し、PRできる資料を準備する。	B	A	
			体験入学、中学校訪問、高校説明会等における資料を作成する。	A		
			各種説明会において、本校の在校生や卒業生などの協力を依頼し、活用を図る。	A		
	生徒募集部の分析に従い、本校の教育活動をより良く紹介できるよう、手段・方法を考案する。	校外でも本校の活動の様子がわかりやすい説明会用資料の充実を図る。	B	B		
		生徒募集用に、中学生など若者の共感を得る写真やポスターなどの作成に取り組む。	A			
		本校の学校紹介や進路相談を、教職員の誰もが普遍に行えるよう工夫する。	B			
図書課	豊かな感情や情操を育む読書センター機能の充実	「朝の読書」の推進と、学級読書会の充実を図り、読書意欲を喚起する。	A	A	①図書館行事の検討。 ②図書館利用の促進・図書委員会活動。 ③図書館内の整備。	
		「図書館便り」「新着図書紹介」などで図書館からの情報発信を行い、利用を促す。	B			
		定期的な選書を行うことで、本校生にふさわしい書籍の購入をし、蔵書の充実を図る。	A			
	生徒が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能の充実	図書館オリエンテーション（1年）を実施し図書館の利用方法を学ばせる。	A	A		
		教科や学年、関係分掌へ希望調査を行い、教育課程の展開に寄与できる図書を購入する。	A			
		「主体的・対話的で深い学び」・総合的な学習の時間などへの情報の支援を行う。	B			
	本校生・教職員が利用しやすく、親しみやすい図書館の整備	利用案内の作成、机・椅子の配置、新聞・雑誌の検討をするなど読書・学習環境の整備を行う。	A	A		
		三稜祭などの行事を図書館で行うことにより、図書館利用の楽しさを知らせる。	A			
		季節や話題に応じた館内のアレンジを工夫し、利用しやすく親しめる図書館作りを行う。	A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
生徒指導部	生徒指導課	「規律と品位」を指導し規範意識の向上を図り、地域から信頼される生徒を育成する。	言葉遣い・挨拶の励行・時間厳守・端正な服装の徹底を図り、地域に信頼される生徒を育成する。	B	B	①「時を守り・場を清め・礼を正す」教育の実践の工夫。 ②大運動会・三稜祭の2大行事の成功。 (チア導入、一般公開とクラス展示の導入) ③生徒会及び各種委員会の活性化。
			校則を明確に示し、全職員による一貫した指導を行うことにより規範意識を高め、問題行動を0件にする。	B		
			学校と家庭との指導の共通理解を図り、一貫した指導体制を構築する。	A		
		自他の安全に対する意識を高め、生命を尊重する態度を育成する。	交通安全教育や登下校指導を通して、安全への意識の向上と、マナーの向上を図り、登下校中の事故発生を0件にする。	B	B	
			情報モラル教育を通して自他の気持ちを尊重する態度を育み、ネット上のいじめ問題等の発生件数を0件にする。	B		
			生徒会を中心とした生徒自らの安全に対する啓発活動を通して、危機管理に対する意識の向上を図る。	B		
	自らを律し、鍛錬し、愛校心を育むと共に、地域社会のリーダーとなる生徒を育成する。	学校行事や各種委員会活動の積極的な取り組みを通して、愛校心を育み、学校満足度100%を目指す。	A	B		
		地域社会の活性化に繋がる活動に積極的に参加することで、地域を大切に思う気持ちを育成する。	B			
		部活動の活性化を図り、対外と交流を図る中で規律の大切さを学び、自律した行動を促進する。	B			
	保健課	心身の健康保持・増進に積極的に取り組める生徒を育成する。	健康診断等を活用し、適切に指導することで、生徒自らが心身の健康管理ができるように努める。	B	B	
			生徒保健委員会の活動（保健だより発行等）を活性化し、充実を図る。	A		
			体育的な行事の前に校医による健康相談等を実施し、事故防止に努める。	B		
清掃活動により学習環境を整える。また、奉仕活動等により、勤労と奉仕の態度を養成する。		毎日の清掃活動を徹底させ、学習環境を「整美」する。	A	B		
		北校舎完成に伴い、清掃区域分担の確立を図る。	B			
		地域清掃ボランティア活動を年2回実施する。	B			
健康的で、逞しく生きる力を育成する。	担任との連絡を確実に行うことで、生徒の変化を早期に発見する。	B	B			
	学年・教育相談委員会・スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒の支援に努める。	A				
	健康教育推進事業（性と心の健康相談）の実施と効果的な活用を図る。	B				
生徒募集部	定期的な中学校訪問や塾訪問により、中学校や塾との信頼関係を深める。	定期的な訪問によって信頼関係を築き、本校への満足度や評価を探る。	B	B		
		本校への志望者動向を定期的に確認する。	C			
		オープンスクール、学校説明会や中学生参加行事等の企画・案内を行う。	B			
	中学生やその保護者に対するの広報活動をおこない、本校の特色の周知を図る。	オープンスクール・相談会を複数回開催し、参加者のべ500名を達成する。	A	A		
		本校生の協力のもと中学生・保護者対象の行事をおこない、伝習館の魅力を伝える。	A			
		受験校選択の時期に合わせたオープンスクール、ミニ・オープンスクールを開催する。	B			
	全職員への情報の共有化を図る。	朝礼や校内研修会等にて、中学生や保護者、塾関係者等の学外の声を学内に伝える。	C	C		
		平成30年度入試の志願者分析を行う。	C			
		他校の広報活動や志望者動向についての情報を収集し、本校の広報・募集活動に活かす。	C			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
第1学年	基本的生活習慣の確立	三点固定主義（起床時間・自宅学習開始時間・消灯就寝時間）を推進し、生活のリズムを確立させる。	B	B	B	①基本的生活習慣の確立。 ②進路意識の高揚。 ③伝習館生としての言動。
		生徒が心身ともに健康で過ごせるように学年団で情報共有を常に行う。	A			
		学校・学年行事や面談を通じて、時間厳守、挨拶の励行、端正な身なりを徹底させる。	B			
	基礎学力の養成	予習、授業、復習のサイクルを習慣づけさせる。	B	B		
		学習ガイダンスを活用し、高等学校の授業の速度と難度に円滑に適応させる。	B			
		学習意欲が高まるような授業を工夫し、家庭での課題は計画的に与える。	A			
進路意識の高揚	3年間使用する進路ファイルを作成し、自分の進路に対する考えや学習したことを記録する。	A	B			
	総学・HR活動等での講話や配布資料の充実を図る。	B				
	スーパー課外を充実させ、難関大学志望者を育成する。	B				
第2学年	主体性の育成と学校への貢献	挨拶・時間厳守・端正な髪型や制服の着こなしなど1年生の模範となるよう指導する。	B	B	B	①3学年としての自覚を持った生徒の育成。 ②第一進路希望実現のための取組の推進。 ③自己実現を通しての人的成長。
		学校生活の様々な場面での主体的な活動を促し、次期のリーダーとなる人材を育成する。	B			
		年間の出席皆勤生徒100名を目標にし、安易に欠席をしない生徒を育成する。	B			
	学習習慣の確立と学力の伸長	学習面について、生徒自身の的確な課題の把握とその対策への支援を行う。	B	B		
		国数英総合偏差値60以上の人数100名以上を目指し学年全体の学力の底上げを図る。	B			
		課題の提出期限を厳守させることで計画的な学習習慣を身につけさせる。	B			
高い進路目標の設定と受験体制の基礎作り	2学期終了までに進路目標を明確に持たせ、3学期以降は受験生として学習活動に邁進させる。	B	A			
	オープンキャンパス参加や進路講演会を通じて難関大への挑戦意欲を向上させる。 模試分析伝達会が、日々の学習活動に励む原動力となるよう一層充実を図っていく。	A A				
第3学年	進路保障のための取組の推進	基本的生活習慣を確立させ、皆勤者100名以上を目指す。	A	B	B	①高校生としての基本的生活習慣の確立。 ②基礎学力の定着。 ③3年間を見通した進路指導の在り方の検討。
		主体的学習態度を育て、自学の平均学習時間1日240分以上を目標とする。	B			
		学年団での情報共有に努め、他分掌と協力して効果的な進路指導を展開する。	B			
	自主自立の精神の錬磨	最高学年としての意識を高め、下級生の模範となる態度や行動を心がけさせる。	B	B		
		挨拶や礼節のある態度、端正な服装、時間厳守などの人としての品格を育てる。	A			
		生活の記録や面談等を通して生徒の状況把握に努め、的確な指導助言を行う。	B			
	自己実現を通しての人的成長	第1志望の大学や進路を目指して、根気強く地道な努力を続けるように指導する。	A	A		
		授業や課外、進路関係行事等に前向きに取り組ませ、精神的向上心を育てる。	A			
		国公立大学合格者100名以上を目標とする。	B			